

安心できる食料の安定的供給

福田 佳也乃

アソシエイトフェロー

JST研究開発戦略センター



独立行政法人科学技術振興機構 研究開発戦略センター
Center for Research and Development Strategy Japan Science and Technology Agency

目 標

- 日本発の科学技術イノベーションによって消費者が求めている付加価値を満たした食料を、地球規模で生産し安定的に供給する。
- 各国・地域のニーズや実情にあった生産基盤を、技術提供側と食料生産側との国際的分担によって確立し、付加価値向上食料の量的確保を実現する。
- 高付加価値食料の効率的生産システムに必要な研究開発、人材育成、資本投入を推進し、日本独自の技術と運用の仕組みを、アジアや南米、アフリカに向けて移転・輸出する。
- 2050年に日本の農業を輸出産業に転換する。特に、主食および準主食となる作物を優先して取り組む。

必要な国際的枠組み

- 農学と工学の融合分野における国際共同研究の推進と人材の国際交流の促進
- 産地・消費地コーディネーターの国際ネットワーク形成による、各国および地域における嗜好性も含めた消費者ニーズと、利用可能な水の量などを含めた生産ポテンシャルの検討
- 国際営農コンソーシアムによる各国および地域での最適な生産システムの構築および営農ビジョンとその指標の作成
- 知財化および国際標準化された技術の適切かつ有効な流通の促進
- 農業生産関連資源再利用促進のための国際資源循環システムの構築

鍵となる技術

■ 作物生産技術

- ☐ 栽培・管理
- ☐ ゲノム育種
- ☐ 遺伝子組換え

■ 品質保証技術

- ☐ 機能性評価技術
- ☐ 安全性評価技術

■ デザイン・イン型食料生産技術

- ☐ 消費者ニーズを生産の段階から取り入れることによって、新たな食のマーケットを開拓し、農業のあり方を根本的に変更

得られる効果

- 健康寿命延伸
- 国土・環境の持続的保全
- 消費者の信頼確保
- 無形資産の価値向上
- 生産・流通・小売関係の雇用確保
- 1 日本の農業の産業構造改革